

パシルネ・ニュースレター第2号へようこそ！

戦後の急速な近代化により伝統文化が衰退した太平洋の島嶼国では、伝統的な知識が適切に記録されることなく失われつつあり、現地住民がアクセスできる彼らの文化や歴史に関する情報も非常に限られています。NPO 法人パシフィカ・ルネサンス（通称・パシルネ）は、オセアニアの現地住民による伝統文化の復興・再生（ルネサンス）に貢献するために、伝統文化や歴史の記録・調査・教育での活用に取り組むことを目的として、

2014年9月にオセアニアの青年海外協力隊OBや研究者が中心となり設立されました。

このニュースレターでは、パシルネが2016年度に行った主な活動について報告します。この期間、私達はミクロネシア連邦での活動とオセアニア島嶼国の人々を対象としたインターネットでの情報提供を中心に行いました。

記録・調査・教育

ポーンペイ州での口承伝承の記録と動画の配信

パシルネでは、NPO 設立以来、ミクロネシア連邦ポーンペイ州の島々で、失われつつある口承伝承をお年寄りから映像で記録し、そのビデオをインターネットで公開しています。まず2016年には、2月に貨客船でピングラップ・モキッロ環礁を訪れ、多くの伝承を記録することができました。本年度は嬉しいことに、6月より1年間このプロジェクトを行うために、KDDI 財団より社会的文化的諸活動助成をいただきました！11月からの現地での活動では、パシルネからの提案により、以前からさまざまな面で協力していただいていた、ポーンペイ州で文化行政を担当する州歴史保護局とこのプロジェクトを協働して行うことになりました。これにともな

い、以前から行っていた離島の住民からの記録に加え、ポーンペイ本島での記録を開始しました。同局は伝統文化の記録・継承に関して重要な役割を果たすべき政府機関であり、これから数年間協働することにより、伝承の記録が継続的に行われるきっかけとなることが期待されます。

記録した語りの動画は、ポーンペイ島とともに米国在住（ミクロネシア連邦全人口の3分の1が出稼ぎに出ている）のポーンペイ人が見ることができるように、NPOのユーチューブ・チャンネル（2ページ参照）で公開しています。



ポーンペイ人への聞き取り



カピングマランギ人伝統首長への聞き取り

インターネットでの情報発信

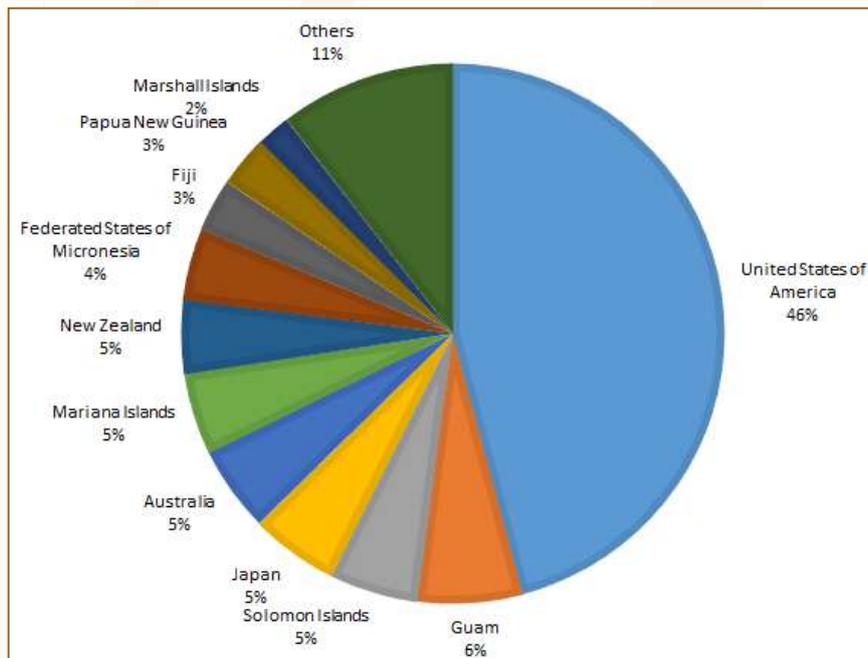
パシルネは、フェイスブック・ページ（以下「FB ページ」、<https://goo.gl/UMuhCp>）を利用して、毎週～隔週 1 回のペースでオセアニアの伝統文化・歴史やパシルネの活動に関する情報を英語と日本語で発信しています。2016 年度末で 7,314 人（年間 2,050 人増）に達するファン数は、オセアニア地域の文化的分野で活動している団体の中では有数の数となっています。ファンの内訳としては、ミクロネシア人の多くが出稼ぎに行っている米国・米領グアムで 52%、ミクロネシア連邦が 4%、日本が 5%、その他オセアニア諸国で 26%となっています。

またこの FB ページへの投稿より幅広い内容を投稿したり、オセアニアの人々自身による情報のシェアや意見交換への参加を促進したりするため、2015 年 3 月に開設したフェイスブック・グループ「Pasifika Renaissance」(<https://goo.gl/7crV9f>) は、2016 年末で 3,040 人（年間 184 人増）がメンバーとして

登録しており、オセアニアの人々が活発に利用しています。

2015 年 4 月に開設したパシルネのユーチューブ・チャンネル (<https://goo.gl/jp3kZ2>) では、前述の口頭伝承の動画の他に、文化的な活動・行事などの動画を公開しています。2016 年よりオセアニアに関する日本国内や海外で行われる講演や研究発表などをより多くの人が見ることができるように、ビデオで記録し、パシルネのユーチューブ・チャンネルで公開しています（現在 16 本のビデオを公開中）。

公開している動画数が、2015 年度末 42 本から 2016 年度末 105 本へと増加したのにもない、1 日平均視聴回数も 112 回から 178 回へと 1.5 倍増加しました。動画の内容が、パシルネの活動を行っているミクロネシア連邦に関するものが中心となっているため、視聴回数は米国領 78.5%・ミクロネシア連邦 12%で全体の 90.5% を占めています。



パシルネの FB ページのファンの国・地域別内訳



パシルネのユーチューブの 1 日の視聴回数

ナンマトルの世界遺産登録が決定！

おめでとう、ミクロネシア連邦！2016年7月、ポンペイ島のナンマトル遺跡が、ユネスコ世界遺産委員会において同国では最初の世界遺産に登録されました！（パシルネでは、今後、遺跡名を従来の「ナン・マドル」ではなく、現地語の発音に従った「ナンマトル」を使います）ナンマトル遺跡は、90以上の人工島がサンゴ礁の浅瀬につくられた、太平洋の島々の中でも規模的に最も大きい巨石遺跡です。過去の考古学調査から、紀元500～1500年頃にかけて築かれた、宗教・政治のセンターであったことがわかっています。

この遺跡を世界遺産に登録するというのは、ミクロネシア連邦政府の長年の夢でしたが、地域住民と政府との間の遺跡の土地所有権をめぐる確執や技術的な問題から申請を阻まれていました。しかしユネスコ太平洋州事務所の要請にもとづき、2011年より日本・米国・オーストラリアが技術協力を開始したことにより、申請に向けて動き始めました。長岡拓也代表理事は、2012年より国際協力チームのメンバーとしてミクロネシア連邦歴史保護局によるナンマトル遺跡の世界遺産登録事業に参加しました。2014年より同局からの受託事業として、他のメンバーや関連機関との調整を行い、2015年1月にユネスコに提出した推薦書の作成に協力しました。

しかし遺跡の保存状態や管理体制の欠如のため、同時に危機遺産に登録されたように、世界遺産登録は最終目標ではなく、遺跡の長期間にわたって持続可能な保存・管理への第一歩です。今後、外務省の外郭団体である一般財団法人国際協力推進協会が、遺跡の保存を支援することになり、パシルネとして継続的に協力を行う予定です。自分たちの先祖の偉業が国際的に認められたことが、ミクロネシア連邦や太平洋島嶼国の人々が自分達の文化・歴史を見直し、誇りを高めるきっかけになることを望んでいます。



ユネスコ世界遺産委員会で謝辞を述べる
ミクロネシア連邦代表オーガスティン・コーラー氏



ナンマトル遺跡

ヤップ島での石貨遺跡の調査・記録のトレーニングの報告書完成！

ミクロネシアのヤップ島では、直径 20 センチから 3 メートル以上になる巨大な石のお金、石貨が現在でも儀礼的な交換の場で使われています。この石貨は 20 世紀初頭まで、500 キロメートル離れたパラオで切り出されて、先史時代はカヌーで、19 世紀後半以降は欧米人の船でヤップに運ばれてき、村の集会所や男子集会所に隣接して設けられた踊りの場に数多くならべられました。

2010 年、ヤップ州歴史保護局は、パラオ歴史保護局とともにパラオの石貨採掘遺跡とヤップ島の石貨遺跡を世界遺産登録へ申請しましたが、不登録となりました。その後、両歴史保護局は再申請に向けて準備を開始し、これを支援するために 2015 年 5 月に長岡代表理事は、ヤップ州歴史保護局スタッフに対して遺跡の調査および記録データベース作成・管理に関する

トレーニングを行いました。2016 年 9 月に同局へ提出したこのプロジェクトの報告書は <https://goo.gl/J9kWZu> からダウンロードできます。



石貨遺跡でのトレーニング風景

ポンペイ島ソケース山の公園化に対する技術協力

現在、ミクロネシア連邦政府は、観光開発に力を入れており、パシルネはその一環として行われる、ポンペイ島ソケース山頂を公園化する整備計画の作成に協力しています。この地域には、ドイツ統治時代の有名なソケースの反乱の砦跡や太平洋戦争の日本軍の戦跡などが多く存在し、観光の目玉の一つとして注目されています。

パシルネは、2016 年 9 月に公園に対する住民など

の意識を調査するため、オンラインのアンケートを実施し、80 人から回答を得ました。またポンペイ州歴史保護局と協力して遺跡の調査を行ったり、この事業に関わる連邦政府・州政府関係者のミーティングに参加したり、彼らに聞き取りを行ったりしました。今後、整備計画、管理計画、ツアーガイド・マニュアルの作成を行う予定です。



ソケース山頂の日本軍の高射砲

その他の活動

ナンマトル遺跡の写真展を共同主催

ナンマトル遺跡が世界遺産に登録されたことを記念して、パシルネは、2016年に奈良（1月31日～2月5日）と東京（2月7日～2月12日）で、ナンマトル遺跡の写真展「写真展 世界遺産ナンマトル—太平洋の巨石文明の痕跡を求めて—」を関西外国語大学と共同で主催しました（協力：東京文化財研究所）。奈良会場では100人、東京会場では150人の来場者がありました。この写真展についての記事は、1月29日 (<https://goo.gl/KAusjX>) と2月3日 (<https://goo.gl/7iQsQo>) に読売新聞に掲載されました。



東京会場の様子

パシルネの無形文化遺産のビデオが受賞！

ユネスコの関連機関であるアジア・太平洋無形文化遺産国際情報ネットワークセンター（ICHCAP）が、無形文化遺産の価値についての人々の意識向上のため、「私達の日常生活の中の無形文化遺産」というテーマで主催した、2016年アジア・太平洋無形文化遺産マルチメディア・コンテストで、パシルネのビデオ「ミクロネシア、シャプアーフィック環礁のお祭りの日」が優秀賞（第3位）を獲得しました！このビデオ (<https://goo.gl/dNn7Wa> で公開中) は、2015年

に国際女性デーにポンペイ本島から訪れているシャプアーフィック人を歓迎して伝統的なしきたりにしたがって祝われたお祭りの日に撮影した、食べ物と踊りの衣装の準備、チャントの詠唱に伴う贈答御輿の儀礼的な行進、伝統的な踊りに加えて、太平洋戦争を追悼するためにつくられた歴史的な歌や伝統的なカヌーの帆走を記録しています。私達は、小さなミクロネシアの島の文化に関するビデオが評価されたことを嬉しく思います。



シャプアーフィックのカヌー

出版

2016年には、長岡代表理事が、ナンマトル遺跡に関する4編の論文や紹介文を発表しました。まず片岡修・石村智両氏と共著で論文「ミクロネシアの巨石遺跡ナンマトルの研究の現状と世界遺産への登録について」を学術雑誌『古代文化』に投稿し、日本語と英語で「考古学と口頭伝承から見たナンマトル遺跡」を参加していた科研費の報告書に寄稿しました(<https://goo.gl/v9EAEp>)。また長岡が顧問を務めるNPO法人ミクロネシア振興協会の会報に一般向けの文章「新

世界遺産・ナンマトル遺跡」を2回連載しました(合計4回の予定)(<https://goo.gl/tC3dZn>と<https://goo.gl/k6qVYZ>)。

開発人類学を専門とする関根久雄理事(筑波大学教授)は、「なぜ持続しないのかーソロモン諸島における有機農業普及活動の事例からー」という論文を『グローバル支援の人類学ー変貌するNGO・市民活動の現場からー』(昭和堂、2017年)に寄稿しました。

その他

2016年に、パシルネは、ポーンペイのNGOであるコウシャップ・ロスティのメンバーの要請を受け、彼らが計画している伝統文化を記録・出版する事業を支援することになり、ニュージーランド政府の太平洋開発保全基金への助成金の申請から協力を始めました。その申請が採択された後は、本の内容を検討する有識者によるミーティングに参加し、助言を行いました。この本は、ポーンペイの学校や図書館に配布されるとともに、電子書籍としてインターネット上でダウンロードできるようになる予定です。

ポーンペイの離島であるモキッロ環礁の老人からの要請により、ミクロネシア連邦議会の公共事業費を使

い、数名の老人しか知らない帆走カヌーの建造技術を若者に継承するための講習会を開催することになりました。長岡代表理事は、1994年に青年海外協力隊員として同様のプロジェクトに関わった経験から、この講習会に協力することになり、モキッロ人のコミュニティー・ミーティングに参加し、詳細な計画の作成に協力しました。

長岡代表理事は、2016年11月20日にTBSの『世界遺産』で放映されたナンマトル遺跡(ミクロネシア)の特集の監修を関西外大の片岡修教授とともに務めました。



会員・フラボノ・パートナー

会員・プラボノ

パシルネは、長期的に安定した活動を行うために、財政的な自立を目指して収益事業の確立を模索しておりますが、公的な助成や収益事業の展開が難しい分野・地域であり、会員の年会費や任意の寄付は必要な財源の一つです。パシルネの趣旨にご賛同いただける皆さま

まには、是非とも会員（正会員・賛助会員・法人会員）になってご支援いただきますようお願い申し上げます。詳細については、pasifika.renaissance@gmail.comへメール下さい。

会員種別	
正会員	当法人の目的に賛同し、入会した個人及び団体。総会に出席（できない場合は委任状の提出）の義務があり、法人の運営・活動に参加する。
賛助会員	当法人の事業を賛助するために入会した個人。総会には出席できず、法人の運営・活動には参加しないが、活動を資金的に援助する。
法人会員	当法人の事業を賛助するために入会した団体
年会費（事業年度4月1日～3月31日の1年分）	
正会員	5000円
賛助会員	5000円
法人会員	20000円
会員特典	
正会員	ニュースレターの送付。イベントへの優先的な参加。
賛助会員	ニュースレターの送付。イベントへの優先的な参加。
法人会員	ニュースレターの送付。イベントへの優先的な参加。ニュースレター・ホームページでの貴法人名の紹介と貴法人ホームページへのリンク。

会員・プロボノの皆さまには、この場を借りまして、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

正会員（以下、あいうえお順・敬称略・氏名を公表することに同意いただいた方のみ）

磯崎淑子、井上郁子、井上雄二、川嶋正和、小西潤子、小林泉、小林房代、斎藤弘之、白川千尋、須藤健一、関根久雄、竹川大介、長岡拓也、長島怜央、藤木紀子、Ben Schultz、松本いく子、宮澤京子、門田修、Yumi Schultz、横山敬子

賛助会員

秋田朋子、足立之彦、市川敬子、巖淵光洋、上木原圭、大野志穂、大野康雄、川部浩子、小金丸梅夫、小西哲也、白川博章、白川由里、鈴木貴子、楯あかね、豊田悟、西村岳洋、古澤拓郎、益田兼房、渡辺淑子



法人会員

株式会社森覚貫誠堂

(<http://www.morikaku.org/>, <https://www.facebook.com/morikakukanseidou/>)

ジェイピーエムズ株式会社

(<http://www.jpms1125.com/>, <https://www.facebook.com/jpms1125/>)



一般財団法人国際協力推進協会 (<http://www.apic.or.jp/>)



プロボノ

室谷裕貴（会計）、Davidson Syne（デザイン）、Garry Scott、David Vega、Josh Levy（英文校正）、The First Ferry

またミクロネシア連邦議会デイビット・バヌエロ議員、The Care Micronesia Foundation、現地での活動に協力いただいているポーンペイ州の人々に深く感謝したいと思います。

事業パートナー



ミクロネシア連邦
歴史保護局



ポーンペイ州
歴史保護局



ヤップ州歴史保護局



KDDI 財団

【発行・お問い合わせ】

NPO 法人パシフィカ・ルネサンス

〒634-0843 奈良県橿原市北妙法寺町 2-10

Email: pasifika.renaissance@gmail.com

Facebook: <https://www.facebook.com/PasifikaRenaissance/>

YouTube: <http://www.youtube.com/channel/UCnmyAfrAD0u4MpUF9jLgjad>



パシルネは、オセアニア島嶼国の伝統文化に新しい生命を与え、現地コミュニティに活力を与えるため、文化・歴史遺産を保存し、振興することに取り組む NPO 法人です。パシフィカ・ルネサンスという名前は、「太平洋の島々 / 島の人々の伝統文化の再生・活性化」という意味です。